

保育園における避難訓練と防災対策の現状と課題について

The Study on Disaster Evacuation Drills and Disaster Preparedness in Nursery Schools

原野 直子¹
Naoko HARANO¹

¹ 名古屋大学減災連携研究センター

Disaster Mitigation Research Center, Nagoya University

Disaster Evacuation drill is a duty defined by the law in the public nursery school in Japan. During the Great East Japan Earthquake, human casualties in the public nursery schools were not severe thanks to monthly disaster evacuation drills based on the past disaster experiences. This study focuses on the disaster evacuation drills and disaster preparedness activities in nursery schools of Kota Town, Aichi Prefecture, Japan. Kota Town suffered severe damages in the 1945 Mikawa Earthquake. Through the interviews to nursery schools in Kota Town, the study reveals the current situation of nursery schools in Kota town, and it discusses how to improve it.

Keywords : nursery school, disaster evacuation drill, disaster preparedness, Kota Town, Mikawa earthquake

1. はじめに

公立の保育園においては、児童福祉法により避難訓練の実施が義務づけられている。児童福祉法第四十五条の規定に基き定められた児童福祉施設最低基準第 6 条第 2 項には、「避難及び消火に対する訓練は、少なくとも毎月一回は、これを行わなければならない」と規定されている。東日本大震災においては、この規定に基づき毎月避難訓練が行われていた公立の保育園においては、保育中に犠牲となった園児は 3 人¹⁾にとどまっている。これは、毎月の避難訓練を実施していたこと、過去に何度も地震や津波の被害にあったことから東北地方では地震・津波を意識していたためだと考えられる²⁾。

これに対し、1945 年に三河地震による被害を受けた愛知県幸田町の保育園においてはどのような取り組みを行っているのかに着目し、避難訓練の見学や防災対策についての保育士へのヒアリングを通じて、現状の把握と課題の洗い出しを行い、今後に向けての考察を行った。

2. 保育園における現状

幸田町内には公立の保育園は 8 園あり、保育士・調理員併せて 271 名、園児 1,092 名（平成 27 年 4 月 1 日現在）が在籍している。本調査においては、幸田町内の全保育園における避難訓練の取り組みと防災対策に関する調査を行った。調査結果を表 1 に示す。

保育園における避難訓練の実施状況については、全ての保育園において毎月 1 回避難訓練の時間が設けられている。実施内容については地震・火災からの避難や不審者からの避難など、月ごとに様々な状況を想定して避難訓練を実施している。また、どの保育園においても避難を行うだけでなく、紙芝居やビデオを使って子ども達に火災や地震・風水害について教える時間も設けており、防災教育と一体となった避難訓練を実施している。また、避難訓練を実施する時間帯については、登園直後や昼食中、お昼寝中など、様々な時間帯で実施しており、いつ災害が発生しても適切に避難することができるように、

時間帯や状況を変えた避難訓練を実施している。さらに避難訓練を実施する際の園児の状況については、屋内活動中などの担任保育士が近くにいる状況だけでなく、園庭あそび中などの担任保育士が近くにいない状況でも実施しており、担任保育士以外の近くにいる保育士の指示に従って園児が行動することができるように工夫がなされている。避難訓練計画の一部を表 2 に示す。また、東日本大震災の際には、園舎内からの避難の際に、靴を履くのに時間がかかり避難に時間がかかった保育園もあったが³⁾、幸田町内の保育園では園舎内において上履きを履いており、避難する際には上履きのまま園庭に出ていくため、迅速な避難ができています。

この避難訓練計画については、毎月 1 回実施ということは全ての保育園で共通に定めているが、想定する災害や実施日・実施時間・防災教育の内容については保育園ごとに園長をはじめとする保育士が決めており、内容は異なっている。避難訓練実施後には職員会議等において反省点などを話し合い、次回に向けての改善を図っているが、保育園間で避難訓練や防災対策について話し合う機会は設けていないため、他の保育園での実施状況や問題点等については保育園間では共有されていない。

次に、保育園における防災対策については、昭和 56 年以前に建てられた 3 園を含め、全ての保育園は耐震基準を満たしている。保育園内のげた箱や棚については、全ての保育園において、園児の活動するスペースについては固定されているものの、職員室等の園児が普段あまり出入りしないスペースについては固定されていない保育園があった。また、保育園内の食糧の備蓄については、昨年から、災害時に保護者に引き渡しができない場合を想定して、全ての保育園において米・水の備蓄を開始したものの、十分な量の備蓄品があるとはいえない状況である。また、電気・ガス・水道等のライフラインが使用できない場合を想定しての炊き出し訓練等は実施していない。

また、幸田町内の関係する部局間（防災部局・消防部局・保育園担当部局・保育園）の連携については、保育

園担当部局と保育園については直接の管轄部局ということもあり、連携をとりながら各種訓練や対策を実施しているが、防災部局については、保育園においてどのような防災教育や防災対策を行っているのか、全く把握できておらず、連携がとれていない状況である。なお、消防部局については、訓練実施時の連絡・報告や、一部の保育園については消防署員協力を仰ぐ等、連携した訓練を実施している保育園もあった。

表 1 各保育園の避難訓練・防災対策の内容

| 内容 | | 坂崎 | 大草 | わしだ | 菱池 | 幸田 | 豊坂 | 深溝 | 里 |
|-----|------------------|----|----|-----|----|----|----|----|---|
| 地震 | 避難訓練(予告あり) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(予告なし) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(自由行動中) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 園児への教育(紙芝居等) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 保育士への教育 | | | | | | | | |
| | 他部局との連携(連絡・報告以外) | | | | | | | | |
| | 防災対策(耐震化) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 風水害 | 避難訓練(予告あり) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(予告なし) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(自由行動中) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 園児への教育(紙芝居等) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 保育士への教育 | | | | | | | | |
| | 他部局との連携(連絡・報告以外) | | | | | | | | |
| | 防災対策(非常用備蓄) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 火災 | 避難訓練(予告あり) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(予告なし) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(自由行動中) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 園児への教育(紙芝居等) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 保育士への教育 | | | | | | | | |
| | 他部局との連携(連絡・報告以外) | | | ○ | | | | ○ | ○ |
| | 防災対策(非常用備蓄) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 不審者 | 避難訓練(予告あり) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(予告なし) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 避難訓練(自由行動中) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 園児への教育(紙芝居等) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 保育士への教育 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| | 他部局との連携(連絡・報告以外) | | | | | | | | |
| | 防災対策(非常用備蓄) | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

表 2 保育園避難訓練計画(一部)

| Ⅱ期 保育士の合図や指示にしたがって行動する。 | | | | |
|-------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------|--|
| 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | |
| ○防災の日を知り地震や火災の危険性を知る。 | ○放送や合図をしっかり聞いて行動する。 ○防火意識をもつようにする。 | ○保育士の指示に従って速やかに行動する。 | ○約束を守って安全な場所に避難する。 ○暖房器具の危険性を知る。 | |
| 地震・火災(防災の日) 給食室より出火 負傷者あり () (青) () (緑) | 地震・火災 自由遊び時 給食室より出火 | 地震・火災 室内遊び時 遊戯室より出火 不審者侵入 | 地震・火災 自由遊び時 職員室より出火 漏電 | |
| ・防災の日になんだスライド、16ミリをみる。 | ・保育士の指示に従って避難する。 | ・保育士の指示を聞き避難する。 | ・保育士の指示に従って避難する。 | |
| ・発炎筒を焚いて煙の恐ろしさを知り、保育士の指示に従って避難する。 | ・年長児は消防署見学に行き、署員の話を聞いたり車両などを見学する。 | | ・スライドを見る。 | |
| ・「防災の日」について話したり、身近におこった災害について話し、避難の仕方注意事項を再確認する。 | ・子どもの位置を把握しておくとともに、近くの保育士の指示にしたがって避難するように話しておく。 | ・合図があつたらまず落ち着いて放送や保育士の指示を聞くようにしむける。 ・保育士が役割分担をし、子どもたちに恐怖心を与えないように、安全な場所に誘導する。 | ・火災の怖さを知らせ暖房器具の周りで遊ばないようにさせる。 ・出火場所により避難経路が違ふことを知らせ、落ち着いて行動させるようにする。 | |
| ・けが人を想定し救護活動をする。 | ・消防署に下見に行ったり署員と十分打ち合わせをしていく。 | | | |
| ビデオ 大地震が来た 地震は日本の名物 紙芝居 「関東大しんさい」 | 紙芝居 「がんばれしょうぼうしゃ」 「ねぼすけチュータくんとおじさん」 消防署見学(年長) | 紙芝居 「あつちがもえてる」 「かめくんだいじょうふ」 「ベルがならぬ」 | 紙芝居 「やけど」 「あぶないねひこうききょうそう」 スライド 「あぶないひめぞう」 | |

3. 保育園の避難訓練・防災対策をめぐる課題

調査においては、保育園の避難訓練・防災対策についてより詳細に把握するために、全ての保育園の園長・副園長に対し、ヒアリングを行った。ヒアリングを通して把握された課題を以下に整理しておく。

第一に、園児の訓練に対する理解度である。園児は、

入園直後は他の園児の避難の様子を見学し、翌月から毎月繰り返し訓練を行っている。繰り返し訓練を行うことにより、スムーズな避難ができるようになっていく。

第二に、避難計画であるが、園ごとに避難計画・避難場所(屋外)を定めているが、災害時に避難計画通りに行動して大丈夫か、避難計画の内容が職員全員に徹底されているかは不安を抱えている。なお、幸田町においては、津波の心配はないため、保育園園庭や遊戯室が避難所・避難場所とされており、保育園にとどまることが安全と考えている。

第三に、保育園の防災対策についての相互交流の機会がほとんどない点である。保育士の異動等を通して他の保育園の避難訓練等について知る機会は少しあるが、実際に、他の保育園がどのような取り組みをしているのか知る機会がない。保育士に対しての災害に関する研究会や勉強会は実施していないため、災害時の適切な行動を学ぶ機会がなく、自分たちの判断で避難について考えざるを得ない。

第四に、地震時の避難をめぐる課題である。火災時にはベルを合図に避難を開始するが、訓練においては、揺れがない状態で園児に「地震が発生した」ことを知らせており、それを理解させることが難しい。また、園内放送のない保育園については、園庭での活動の際に地震の発生を知らせるのが難しい。

4. 今後に向けて

以上に述べた調査結果からは、幸田町においては、保育園児への防災教育より、むしろ保育士への防災教育や、保育士間の情報共有の場が欠けていることが明らかになった。そこで、本調査の結果をふまえ、今後の改善策として、以下の3点を指摘しておく。1つ目は保育士に対する防災教育である。幸田町では保育士に対する防災教育は行っておらず、保育士は災害時に計画通りの対応で大丈夫か不安に思っている。このことから災害や防災に関する正しい知識を身に付け、適切な行動がとれる保育士を育成することは重要である。2つ目は保育園間において各保育園の防災対策について情報共有する場の設定である。それぞれの保育園の特性はあるものの、保育園間で共通の課題も多くあるため、情報を共有することにより互いの問題を解決することができる。これには毎月実施している園長会や園長補佐等の会議の場の活用が可能だと考えられる。3つ目は防災部門との連携である。現在は、防災部局と保育園がお互いに何を行っているのかを知らない状況であり、このままでは、実際の災害にスムーズな対応を取ることはできない。そのため、平時から訓練等を通じて連携できる環境が必要である。以上に述べた、改善策に関係各所が協力して取り組むことが重要である。

参考文献

- 1) 河北新報 2011.10.4
- 2) 石井博子・小川恵美・宮林佳子・田中哲郎:災害時の保育園の危機対応に関する研究、『保育科学研究』第2巻, 2011
- 3) 財団法人こども未来財団, 東日本大震災における保育所・児童保育所の被災実態と防災訓練に関する研究
- 4) 深溝保育園提供